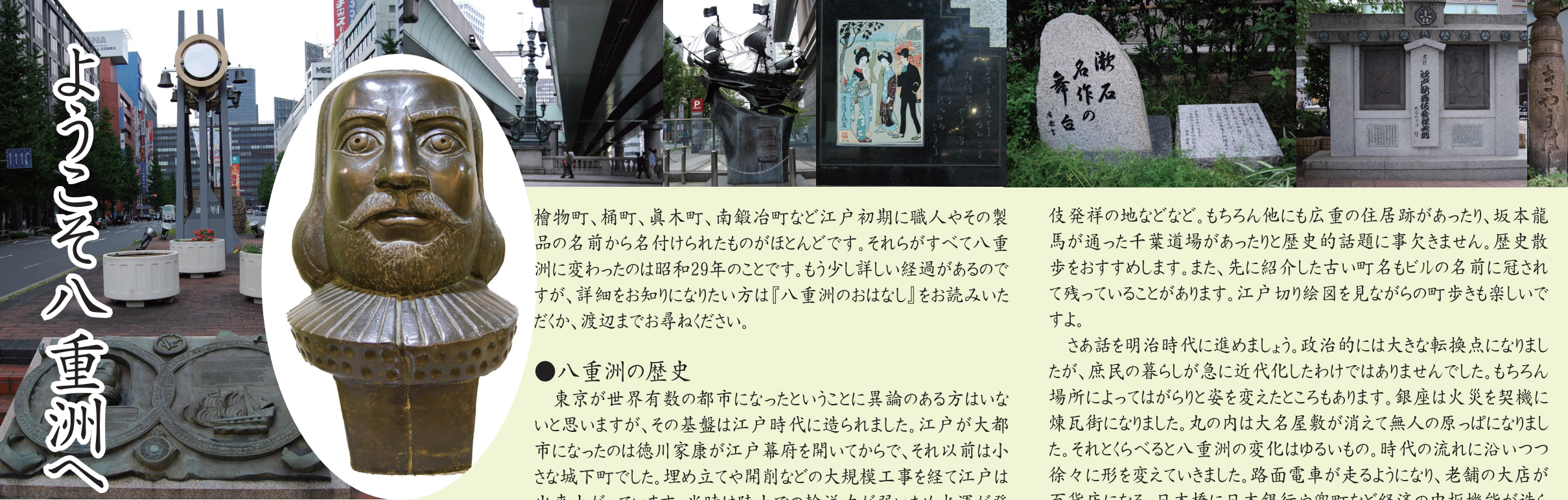




古本屋の仕事には新年度もなにもありませんが、仕事の節目は通路を歩き交う人々の雰囲気から伝わってくるものです。長期休暇を前にしたちょっと浮き足たつ感じとか、慌ただしい年末。異動の季節に現れる新卒入社組も集団で動くことが多いから一目で判りますね。この時期のランチタイムはベテランも新人も一斉に昼食に出てくるので、どの飲食店も行列ができ一年で一番賑やかな昼の地下街になります。

初めて八重洲で働く人はこの場所にどんな印象を持つのでしょうか。丸の内ほど整然としたビル街でもありませんし、日本橋のように伝統を感じさせるわけでもない。銀座ほど強い流行性もない。際立った特長のある街に囲まれた庶民的なオフィス街といったところでしょうか。長く働いている身からすると庶民的だからこそ働きやすい場所ともいえます。

地味なことは確かですが、江戸時代から連綿と続く歴史のある街です。今回は八重洲の歴史を少しご紹介しましょう。ちょっとした会話の話題にでも使っていただければと思います。みなさまが八重洲に興味を持つきっかけになってくれれば、なおのことうれしいです。

●地名「八重洲」の由来

八重洲という地名の由来は江戸時代に遡ります。1600年に九州にリーフデ号という船が漂着しました。生存した乗組員数十人のうちの1人、ヤン・ヨーステンというオランダ人は江戸に呼ばれた後、徳川家康の信頼を得て幕府の外交貿易顧問を務め、江戸城近くに屋敷を拝領しました。ヨーステンは1623年に亡くなりますが、屋敷前を流れる河岸は彼の名前をとって八代洲（ヤオス）河岸と呼ばれるようになります。その名は明治まで残ります。ここからヤエスという地名が生まれました。八重洲地下街にはオランダ人の彫刻家が作ったヤン・ヨーステンの像がありますので、ぜひご覧ください。ただ、この八代洲河岸があったのは今の八重洲ではありません。東京駅の向こう側、丸の内の地下鉄二重橋駅の付近です。

地名がはるばる東京駅を越えてやってきたことになりますが、橋渡しをしたのはまさに橋の名前。向こうとこちらを往来するために八重洲橋という橋が架けられていました。もとは向こう側の地名をとって八重洲橋と呼ばれていたのですが、のちのち橋にちなんでこちら側が八重洲という地名になりました。このあたりの元の町名は呉服町、

檜物町、桶町、眞木町、南鍛冶町など江戸初期に職人やその製品の名前から名付けられたものがほとんどです。それらがすべて八重洲に変わったのは昭和29年のことです。もう少し詳しい経過がありますが、詳細をお知りになりたい方は『八重洲のおはなし』をお読みいただくか、渡辺までお尋ねください。

●八重洲の歴史

東京が世界有数の都市になったということに異論のある方はいないと思いますが、その基盤は江戸時代に造られました。江戸が大都市になったのは徳川家康が江戸幕府を開いてからで、それ以前は小さな城下町でした。埋め立てや開削などの大規模工事を経て江戸は出来上がっています。当時は陸上での輸送力が弱いため水運が発達していました。江戸城を造る土木資材から各家庭の食卓にのぼる食材まで、すべて船で運ばれていました。現在は日本橋川しか河川のないこのあたりも、ぐるりと川に囲まれていたんですよ。ですから橋もたくさんありました。日本橋にはじまって京橋、江戸橋、新橋、呉服橋、鍛冶橋、数寄屋橋と、この周辺にある〇〇橋という地名は全部、江戸時代にあった橋の名前です。地名を線で結んでいけば、川に囲まれていたことがわかりいただけることでしょう。

ここは庶民が暮らす町でした。庶民が生活する町って当たり前のことなのですが、すぐそばにある東京駅から皇居までの一帯はまるで性格が違いました。広い大名屋敷が並び通称「大名小路」と呼ばれていて完全な武家の世界。町人の家屋は一軒ありません。こんな川柳があります。

丸の内きよりきよりと田舎者
その一方、江戸っ子たちは同じような場所が他の地方にないことを自慢にも思っていたようで、
他の津にないは大名小路なり
江戸味噌といふは大名小路なり
などとも詠んでいます。

町人地だったこちら側は日本橋を中心として日本で一番の商業地に成長しました。日本橋といえば魚河岸、江戸っ子たちの台所。江戸初期には芝居小屋や吉原も近くにありましたから、町自体にデートやアミューズメントのような楽しさがあったはずですよ。

一日に三千両のおちどころ
という川柳があるのですが、朝は魚河岸に千両、昼は芝居に千両、夜は吉原に千両おちるといわれていました。江戸の町の繁栄ぶりがわかります。

歌舞伎が生まれたのもこの土地でした。歌舞伎のはじまりは出雲の阿国といわれていますが、江戸で常設の興行をはじめたのは初代中村勘三郎です。場所は日本橋と京橋とのちょうど中間くらい、中橋南地といわれるところですよ。歌舞伎がはじまる前から浄瑠璃や狂言などの見世物が行われていたといえます。こうした芝居小屋は江戸城に近すぎるという理由から、10年くらいで移転させられています。よほど大勢の客で賑わったのではないのでしょうか。

このあたりにはこうした江戸時代に由来する記念碑がいくつか建てられています。日本橋由来記、日本橋魚市場発祥の地、江戸歌舞

伎発祥の地などなど。もちろん他にも広重の住居跡があったり、坂本龍馬が通った千葉道場があったりと歴史的话题に事欠きません。歴史散歩をおすすめします。また、先に紹介した古い町名もビルの名前に冠されて残っていることがあります。江戸切り絵図を見ながらの町歩きも楽しいですよ。

さあ話を明治時代に進めましょう。政治的には大きな転換点になりましたが、庶民の暮らしが急に近代化したわけではありませんでした。もちろん場所によってはがらりと姿を変えたところもあります。銀座は火災を契機に煉瓦街になりました。丸の内は大名屋敷が消えて無人の原っぱになりました。それとくらべると八重洲の変化はゆるいもの。時代の流れに沿いつつ徐々に形を変えていきました。路面電車が走るようになり、老舗の店が百貨店になる。日本橋に日本銀行や兜町など経済の中核機能が造られはじめたのも明治時代でした。オフィス街へと変貌しつつも、路地に入るとまだ下町の顔がある。三味線や長唄、木遣いの声が聴こえてくる。八重洲はそういう街でした。そして東京駅が完成。これが大正3年のことです。

東京駅の完成当初、改札口は丸の内側だけで八重洲口はありませんでした。こちら側からは駅の脇を通して丸の内側に廻りしかありません。不便だったと思います。それが解消されたのは昭和4年。東京駅の乗降客が増えてきたため、小さな改札口が設けられます。本格的に八重洲口改札が造られたのは戦後のこと。そして昭和29年に大丸東京店が入った6階建ての駅舎ができました。

●八重洲地下街ができたころ

八重洲地下街ができたのは昭和40年。工事が二期に分かれたため現在と同じ広さになったのは昭和44年です。開業当初から現在までずっと都内で一番広い地下街です。全国で見ても二番目の広さを誇ります（一番広いのは大阪のクリスタ長堀）。

この時代は東京全体が変わっていきました。何といっても一番大きな出来事は昭和39年の東京オリンピック。これにあわせて高速道路が造られ、東海道新幹線が走り出します。反面、自動車の交通量を増やすため路面電車が姿を消し、数多くあった河川の埋め立てでも進みました。水運から陸運へ転換期だったともいえます。地下街の開業も、都心に車が増えたため、地下駐車場の必要性が高まったことが背景にありました。

●これからも変化しつづける八重洲

八重洲の変化について書いてきましたが、今後も八重洲は変わっていくでしょう。実際、ここから京橋にかけた地域はまだ開発の予定をたくさん控えています。歩いていても竣工間近のビルや、解体がはじまった地区などが目にとります。八重洲口駅前にあるヤンマービル周辺の再開発計画も動き出したようです。

去年は東京駅赤レンガ駅舎の復原や大丸東京店の増床が完成して話題になりました。特に東京駅駅舎が完成したときは大変に混雑し、現在も毎日たくさんのお客様がお越しくださっています。でもこの八重洲口周辺もまだ進化の途中です。歩行者デッキ、グランルーフが建設中で完成予定は今秋、駅前広場の整備も進んでいます。竣工したときには緑が増えて、風通しのよい新しい八重洲口の誕生です。

R.S.Books店長 渡辺明子



期間 4/26(金)～5/6(月)
“スーベニールBOOKS”
実施店舗 R.S.Books

旅先で誰かへのおみやげを選ぶのも楽しいですが、自分にとっても記念となるものが欲しくなりますよね。
時にはチケットの半券だったり、
旅先でもらったチラシや包み紙だったり・・・
それはそこでしか出会えないもの。
古書との出会いも一期一会です。
思いがけない1冊との出会い、してみませんか？
あなたへのおみやげにしてみませんか？

4/26(金)～5/6(月)
東京迷所案内おみくじ販売
・・・
4/26(金)～4/30(火)
- 特集 てのひらの中のアート -
5/1(水)～5/6(月)
- 特集 描かれた東京 -

読み終えた本をお売りください。

新刊から和本まで1冊から買取いたします。
蔵書整理・出張買取などお気軽にスタッフまでご相談ください。

買取歓迎ジャンル
●文庫(国内作家・推理小説)●美術展カタログ
●芸術関連・読み物●演芸・落語・講談関連
●思想・哲学●戦前の雑誌●歴史関連・読み物
●江戸東京関連全般●趣味の本
★本という形に限らず、印刷物・版画など
さまざまなものも取り扱います★



R.S. Books
TEL/FAX
03-5204-2888

学生証の提示で・・・
平日 10%OFF!
土日祝 15%OFF!
他の特典との併用は不可

ここでも
学割
実施中!!
R.S.Books 店内商品限定 (一部除品有)

店頭や古書の情報をお気軽にお受け取りください。
お得な情報もお届けします。

金井書店グループ通信
毎週メルマガ配信中!

詳細とご購入はこちらから <http://www.kanaishoten.jp/c/>

「えぽっく」はR.S. Booksと金井書店各店舗にて無料で配布しております。
遠方にお住まいの方で購読をご希望の方には5号分単位にて承りますので送料として400円分切手を下記までお送りください。
なお、「えぽっく」は不定期発行ですので発送も発刊時となりますことをご了承ください。

ふぽっく
郵送のご案内

申込先 〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16
金井書店営業本部「ふぽっく」係